

## 群馬銀行の経営戦略の高度化実現に向けて 行内の情報系システムを刷新

群馬銀行は、お客様へのサービスの質の向上による競争力強化など、経営戦略の高度化を図るため、行内の情報系システムを刷新した。新システムは、2013年1月4日から稼働を開始した。新システムの構築にあたっては、日立製作所（以下、日立）が情報系システムの基盤となるシステムインフラの提供・構築を担当し、日本オラクルが提供するデータベース関連製品を活用して、従来のシステム拡張にも柔軟に対応できるシステム構成を実現した。

情報系システムは、データの収集・管理、および供給という役割を一括して担うことで、行内で保有している情報の利活用を促進する「業務のインフラ」となるシステムだ。今回、群馬銀行では、行内各部門での情報の利活用をより効率化するため、新たに統合データベースを構築し、行内で多様化するデータを一元管理するとともに、情報活用ツールとしてオラクルのビジネスインテリジェンス製品「Oracle BI」を導入した。これにより、必要な時に必要な情報を行員自身で自由に検索、入手し、分析することが可能となった。群馬銀行は、今後、効率的なデータ分析により、お客様に最適な提案を実施していくとともに、モニタリング精度向上による内部管理強化、報告資料や管理資料作成などの業務効率化を実現し、経営戦略の高度化を図っていく。

銀行業務の多様化に伴い、業務データが増大しシステムが複雑化していたことにより、これまででは、必要なデータ取得作業に多大な時間と労力がかかっていた。今回、統合データベースを構築することで、分散していたデータを整理し、一元管理を図っていく。また、新たにBIツール「Oracle BI」を導入することで、行員は自分自身で必要に応じ、様々な切り口でデータを検索し、分析

することが可能となった。検索設定の保存や分析機能、表計算ソフトへの出力機能などを活用し、データ収集の簡易化・迅速化を図ることで、従来約1週間かかっていたデータ取得時間を30分程度まで短縮するなど、データ分析における労力を最小限にし、効率的な情報利活用を目指していく。同時にデータの保有期間も、従来の1ヶ月分から最大10年間分へと大幅に拡充することで、長期間でのトレンド分析を可能とし、マーケティング分析の精度向上を実現した。

新システムは、高性能・高信頼性と柔軟な拡張性を備えたプラットフォームを活用して構築した。大規模なデータベース環境には、高速処理を実現するエンタープライズサーバ「EP8000」と、高速系切替を実現するUNIX環境専用の系切替ソフト「HAモニタ」の組み合わせにより高い信頼性を確保した。大量データを格納するストレージには高い信頼性と容量拡張性に優れたストレージの「Hitachi Universal Storage Platform V」を採用し、安定したシステム稼働を実現している。アプリケーションサーバには、統合サービスプラットフォーム「BladeSymphony」のハイエンドモデル「BS2000」を活用し、快適なアプリケーション利用環境を実現した。

今後も群馬銀行では、「サービスの質の向上」による競争力の強化を経営課題と認識し、中期経営計画で目指している「営業力の強化」、「人材の育成と活性化」、「経営体質の強化」に努めていく。

日立は今後も、業務の効率化や柔軟な環境構築を含めたシステムソリューションをトータルに提案し、金融機関の顧客サービス向上やセールス活動を支援していく。

日立製作所 情報・通信システム社  
お問合わせ先：<http://www.hitachi.co.jp/finance-inq/>